

被爆地訪問から感じた私がすべきこと

中野平中学校3年 和田 希平

私達は8月8日(水)から8月10日(金)にかけて長崎県長崎市を訪れ、青少年ピースフォーラムへ参加したり、平和祈念式典へ参列したり、現地の中学生と交流したりなど、様々なことを体験してきました。

1日目は、平和会館ホールにて青少年ピースフォーラムへ参加させていただきました。ここでは、開会行事で被爆者である小峰秀孝(こみね ひでたか)さんが被爆後の実体験を話してくださり、その後、フィールドワークとして青少年ピースボランティアの方と被爆建造物等を見学しました。小峰さんのお話では、戦後自分が受けたいじめや、大人になってからの差別、そして、それを支えてくれた母の尊さを私達に教えてくださいました。その話からは、原爆がもたらした間接的な被害の恐ろしさや、悲しさ、家族の大切さや、人に接する中で「差別をしない」という平和の気持ちを持つことの大切さを学びました。

また、フィールドワークでは、実際に被爆建造物の被爆前の様子を教えていただき、原爆の威力を肌で感じる事ができました。見学している中で、原爆や平和に関する建造物には「水」をイメージするものが多いなと感じました。ピースボランティアの方のお話を聞くと、原爆投下直後、あまりの熱さに水を求める人々が多く、そのまま亡くなった方もたくさんいたので、その方たちのご冥福を祈って水をイメージしたものが多く建てられているそうです。そのような建造物に込められた祈りからも、原爆の恐ろしさを感じることができました。



2日目は、長崎市立緑ヶ丘中学校を訪問し、平和について交流学习を行いました。緑ヶ丘中学校では、学年ごとに平和学習を通して学んだことを発表してくださいました。被爆者の体験記である「黒本」の内容を群読したり、劇を発表したりしてくださいました。被害者の悲しい気持ちや、長崎の人の平和への想いがとても伝わってきました。また、この緑ヶ丘中学校の訪問を通して、それ以上に伝わってきたことがあります。それは、緑ヶ丘中学校の皆さんの「平和に対する熱」です。私は正直それにとっても驚かされ、感動しました。劇を発表するにも、群読をするにも、とても一生懸命で平和に対する願いや、想いが「熱」となって伝わってきました。



緑ヶ丘中学校には「緑ヶ丘中学校平和宣言文」というものがあります。その中には、「継承、発信、創造、今、未来、」という一文があります。これは、緑ヶ丘中学校平和学習のテーマであり、このテーマのもと学んできたそうです。私はまず、中学校に「平和宣言文」というものがある事に驚きました。また、緑ヶ丘中学校の教頭先生はこのような活動を長崎県のすべての中学校で行っていると教えてくださいました。私はそれを聞き自分達との平和への想いにこんなにも温度差がある事が恥ずかしいと思いました。それと同時に自分たちも、もっと平和への想いを深めるべきだと思いました。

原爆を投下されたのは長崎・広島だけですが、その恐ろしさを継承し、発信し、自分たちで平和を創造することは、日本人なら誰でも出来ます。だからこそ、もっと長崎や広島以外の県・市町村でもこの活動を日本中で行うべきだと思いました。

以上のことを私が今回の長崎訪問で経験し、感じたこととして報告します。これらのことをこれから私が周りの人へ伝えていき、中野市の平和教育の発展につながっていけば私達の訪問がさらに価値のある訪問になると思います。

長崎で学んだ戦争と平和

中野平中学校 3年 藤岡寛人

今から 73 年前、一発の原子爆弾が長崎を襲った。あたり一面が火の海と化し、たくさんの人々の命を奪い、また、心や体に深い傷を刻んだ。このことは決して忘れてはならない。これからの世界、平和のために。

私たちは平和学習をするために長崎へ行きました。そこで青少年ピースフォーラムに参加しました。まず初めに、被爆者である小峰秀孝さんのお話を聞きました。小峰さんは、爆心地から 1.5 km の自宅近くの畑で被爆し、両手、両足、腹を火傷し、これらがきっかけとなり、学校でいじめを受けたそうです。戦争を経験していない私たちには、この苦しみや憎しみなどは分かりません。私は、なぜ、このような悲惨な戦争を経験したのに後世へと語り継いでいくのか疑問に思いました。それには理由がありました。小峰さんは「二度とこのようなことが起きないように、二度と被爆者が出ないように、被爆者は戦争や原爆の恐ろしさを次の世代に伝えていくことが役目なのです」とおっしゃっていました。

次に私たちは平和公園の原爆に関わっているものを現地の青少年ピースボランティアの方達に説明をしていただきました。それぞれの碑や、像などに平和への願いや祈りが込められていることが分かりました。また、一つひとつの意味を知ることで戦争についても深く知ることができました。私たちはこの思いを受け継ぎ、平和について学び、これからの世代へこのことを受け継いでいかななくてはならないと強く実感しました。



2 日目に私たちは、平和祈念式典に出席しました。大勢の御遺族の方や一般の方々が出席されていました。黙祷を会場にいる全員でしました。辺りは沈黙に包まれましたが、その中にはたくさんの方々の思いが込められていました。長崎市長の長崎平和宣言の時には平和への意を込めてたくさんのハトが空へと放たれました。そして、安倍晋三内閣総理大臣やアントニオ・グテーレス国際連合事務総長の演説を聞きました。これらの演説を聞き、世界中の国々や人々が、戦争や原爆の恐ろしさを知り、戦争や核兵器がなく平和な世界にしていくための意識を持って行けば良いと改めて思いました。

今回の平和学習を通して、戦争のことを深く知ることができ、実際に被爆者の話を聞き核兵器がもたらす恐ろしさを知ることができました。これらから学んだことは決して忘れてはいけないと思います。私は、被爆者の願いでもある「二度と戦争が起きずに、被爆者が出ないように」を実現するために、まずは中野平中学校の生徒に、そして、中野市、長野県、日本、世界へと戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさを伝えて行きます。体験は共有できなくても平和への思いは共有できます。



今回、僕たちが行ったように被爆地を訪れ、核兵器の怖さと歴史を知ったり、十三崖などの自分の町の戦争に関わる場所に訪れたり、戦争体験を聞いたりすることが平和な世界の実現に向けて、私たちに今できることだと思います。

被爆地・長崎を訪問して

中野平中学校 3年 水野 妃菜子

青少年ピースフォーラムへの参加

8月8日(水)に青少年ピースフォーラムへ参加し、被爆者の方のお話を聞いたり、被爆した建物などを実際に見て回ったりしました。お話では、被爆体験をした小峰秀孝さんの戦争に対する思いを聞きました。やはり、実際に被爆された方のお話を聞くと、痛み・悲しみ・苦しみが感じられて、とても恐ろしかったです。被爆した足によっていじめられたり、被爆した過去によって偏見を持たれて職場も恋人も好きなように選ぶことができなかつたりしたそうです。そのような悲しみを生む戦争は、本当に憎むべきものだと思います。二度と戦争は起こしてはいけなく、絶対に被爆者を再び生んではいけない。そして、そのために私たちが被爆体験を後世へ伝えていかななくてはならないと強く思いました。



フィールドワークでは、被爆した建物などを見て回りました。自分が知らなかった建物を見たり、原爆の事を詳しく教えてもらえたり、とても充実した時間になりました。実際に見て回り、学習できたことは本当に貴重でよい体験となりました。

長崎市立緑が丘中学校での平和集会への参加

8月9日(木)の平和集会では、中学1~3年生の皆さんがそれぞれ学んできたことを、詩の群読、語り・演劇などで発表してくださいました。私たちも十三崖で学んだことを発表させていただきました。どの学年の発表も、私が知らないことが多く、とても勉強になりました。また、原爆の愚かさや原爆の被害状況などを知り、それから自分で調べて理解していくことの大切さを感じました。

そして、被爆地とそうではない地での、原爆と平和学習への積極性の違いを一番痛感しました。被爆地ではないというだけで原爆があったことも知らない人もいますので。私はそれをなくすために、ここで聞いた事に加えてもっと自分が学習し、まずは中野平中学校へ。そこから中野市、さらには長野県へと広めていくことが大事だと思います。唯一の被爆国である日本の人々が平和への願いを誰よりも強く持ち続けていかないとはいけません。



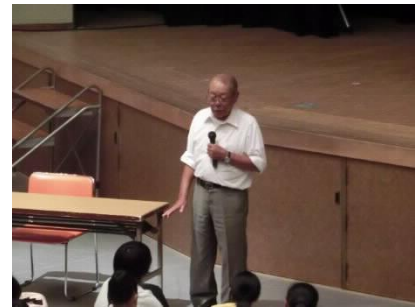
平和について学んだこと

中野平中学校 3年 松沢衣織

私たちは8月8日(水)～10日(金)に長崎県へ行ってきました。今までも戦争についての学習はしてきましたが、実際に現地へ行って自分の目で見て、肌で感じることは初めてでした。そこでたくさんのことを学んできました。

【青少年ピースフォーラムへの参加】

1日目は、各地から集まった中学生や小学生と行う青少年ピースフォーラムに参加しました。そこでは、被爆者の小峰さんという方のお話を聞きました。幼い頃に被爆し、足に大きな怪我を負われたそうで、その写真を見せて下さいました。怪我によっていじめも受けたそうで、体だけでなく心にも傷を負った体験を話して下さいました。また、「核兵器は悪魔の兵器だ。人間が作ったものなので人間が壊すことが出来る。戦争のない世界は一人ひとりが作る。」と話して下さい、とても印象に残りました。



その後、ボランティアの高校生の方々の案内で平和公園や爆心地公園などを巡りました。浦上天主堂遺壁では、爆風によって壁がずれている部分がありました。丈夫な建物でさえも動いてしまうような風圧が人間の身を襲ったと思うととても恐ろしかったです。

このような活動をしている学生の方々がいることも初めて知りました。若い世代が戦争について深く学ぶことは平和への第一歩へ繋がると思いました。

【平和祈念式典への参加】

2日目は、平和祈念式典に参加しました。慰霊碑にお花と全校で折った千羽鶴を捧げました。11時2分、原爆が投下された時刻に全員で黙祷をしました。被爆者の代表の方や日本の首相、国連の事務総長のお話がありました。

参列者の中には外国からの団体が多く来ていたことも驚きました。

式典に参列した人たちが、自分の国に戻って戦争の悲惨さを伝えてくれればいいと思いました。



【全体を通しての感想】

今回参加できたことは私にとってとても貴重な体験でした。自分は、今までも戦争について学んできたつもりでしたが、本当に原子爆弾が落とされた地域に行ってみることで、自分が知らなかったことをたくさん学びました。現地に行ってみなければ知ることのできない体験ができて良かったです。今までよりも戦争に対する関心が高まりました。